

事例

食材を使った科学実験を通じ、子供たちの「食」への興味をかきたてる

キッチンの科学プロジェクト（東京都）

キッチンの科学プロジェクトは、平成25年に科学技術館の食育ワークショップ運営を行った大学院生が発足させた食育ボランティア団体である。科学技術館のイベントではメンバー1人1人が食育ワークショップを企画・実行し、結果2週間で約500名の親子の参加があり、予想以上の反響を受けた。これがきっかけとなり、プロジェクトチームだったキッチンの科学プロジェクトは親子への食育の必要性を感じ、継続的に活動を行うボランティア団体として活動をはじめた。

活動内容の食育ワークショップではただ講義を行うのではなく、必ず「親子で楽しめる科学実験」を盛り込み、楽しんでもらいながら食の大切さを伝える活動をしている。イースト菌の発酵や、ヨーグルトの乳酸菌の観察、バナナの遺伝子抽出など、身近な食材で参加者自らが実験を行う事ができるようになっている。色々な気づきをもたらす科学実験は子供達の興味をひき、「科学」や「食」に興味を持つようになるだけでなく、「科学」と「食」、「環境」や「農」のつながりを実感し、学校の理科や家庭科、自由研究などの勉強にも力を入れるきっかけとなっている。

また、これらの活動は、行政や団体、企業など産・官・学が連携することで頻繁に行われており、毎回の企画・運営を通じメンバーの学生自身も成長を実感しているところである。



子供たちの興味をひくワークショップ



実際に食べ物に触れて実験